

## — 絹糸のような雨が降り 紫陽花が色鮮やかになる頃 —

新暦6月は梅雨の時期ですが、旧暦では梅雨が明け、暑さで水が<sup>か</sup>涸れる月ということで、

「<sup>みなづき</sup>水無月」と呼ばれています。これは、田植え仕事が終わったという意味での「<sup>みなしつき</sup>皆仕尽」あるいは、田んぼに水が張られている状態「<sup>みすづき</sup>水月」が変化したものともいわれています。

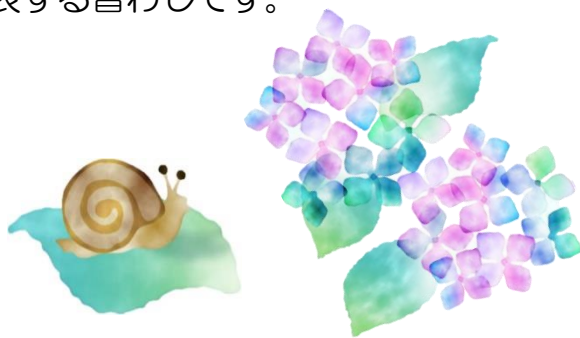
### 【<sup>なごし</sup>夏越の<sup>はらえ</sup>祓】 — 6月30日（旧暦6月晦日） —

6月30日は、半年という節目の日。この日と大晦日は、新たな時期を迎える「物忌みの日」とされ、身の不浄をはらい、<sup>みそぎ</sup>禊を行う「<sup>おおはらえ</sup>大祓」という行事が行われてきました。

年2回の大祓のうち、大晦日は「年越の祓」、対して6月は「夏越の祓」と呼びます。神社を中心に行われる「<sup>ちわ</sup>茅の<sup>わ</sup>輪」行事は、「夏越の祓」を代表する習わしです。

### 6月の四字熟語 【<sup>う</sup>雨<sup>ろ</sup>露<sup>そう</sup>霜<sup>せつ</sup>雪】

さまざまな気象の変化のこと。  
また、人生のさまざまな困難のたとえ。



### 6月の本「やはり雨は嘘をつかない」 皆藤 黒助／著

私の誕生日の前日、おじいちゃんは危篤に陥った。肌身離さず持っていた写真は、私の生まれた日に撮影された心霊写真めいたものだった。しかも「五色の雨の降る朝に」という謎の書き込みが。かわいがられた記憶はないけれど、写真に込められたおじいちゃんの想いを知りたくて、雨の日にはしか登校していない雨月先輩に相談を持ちかける。

これは私が雨を好きになるまでの物語。



発行：講談社 場所：ティーンズコーナー (W かい)

参考文献：「絵でつづるやさしい暮らし歳時記」日本文芸社

：「新明解四字熟語辞典 第二版」三省堂



2023年 teen 's 季節のカレンダー

# 6月

